

クレーンはパワーリーチ E-40にし、鉄骨上に設置した。また、建方一日分の PCF 板ストックヤードを屋上に設置した。

b) PCF 板取付用足場

PCF 板下部のコンクリートスラブでの作業であり、PCF 板上部のはり配筋施工後となるため、単管パイプで作業通路を作製し順次上階に架替える計画とした。

3. PCF 板の作製

PCF 板作製上の注意事項を以下に示す。

- a) PCF 板は現場打ちコンクリートと一体化するので、PCF 板の組立トラスなどと柱・はりの後組鉄筋との関係を確認した。
- b) PCF 板の形状はできるだけ同一にして型枠作製を簡素化した。
- c) セパレーター用金物の形状及び間隔はコンクリート打設時の側圧を考慮して決定した。
- d) タイルの接着強度確保のために、タイルの厚さ、材質及び形状を確認した。
- e) 目地部のバックアップ材の形状及び材質はコンクリート打設時の側圧及び PCF 板の取付作業性を考慮し決定した。
- f) PCF 板の工場製作にあたって、日本建築学会の「壁式プレキャスト鉄筋コンクリート部材の製造基準」を参考にした工場製作要領書を作成し、品質管理を徹底した。

4. PCF 板の取付

板の取付は、スラブ型枠完了時点で行うのが一般的であるが、本工事では作業性、建込み精度に問題があったため、スラブコンクリート打設後に PCF 板を取り付けた。取付を行うにあたっては、一日の取付数量を屋上のストックヤードに仮置した。また、取付には、クレーンと微調整用のチェーンブロックを使用した。クレーンの運搬台は、屋上ストックヤード付近に設置し、オペレーターと取付作業主任者との連絡は有線を使用した。

取付精度のチェックは、地墨から上げた水糸を基準に行い、特に上下の PCF 取合段差には細心の注意を行った。

5. まとめ

- ① PCF 板工法を採用したことにより、施工精度向上、圧着の確実性及び短工期化が可能となった。
- ② PCF 板仮置用の屋上ストックヤードは、他の工種にも大いに役立ち有効に利用できた。